

別紙3 貸与資料目次構成案

●基本設計書目次構成案

本紙					
章	節	項		号	
1はじめに	1.1	本書の位置づけ			
	1.2	本書の目的			
	1.3	関連図書			
	1.4	用語の定義			
2前提条件等	2.1	設計範囲			
	2.2	関連する情報システム			
	2.3	前提条件/制約条件等			
3システム概要	3.1	サイト構成			
	3.2	システム構成		3.2.1	システム構成図
				3.2.2	ハードウェア構成
				3.2.3	ソフトウェア構成
				3.2.4	システム連携
4利用者情報	4.1	利用対象の組織			
	4.2	想定利用者数			
5フォルダ設計	5.1	フォルダ種別		5.1.1	部署フォルダ
				5.1.2	ワーキングフォルダ
				5.1.3	システムユースフォルダ
				5.1.4	ログフォルダ
				5.1.5	システムバックアップフォルダ
	5.2	フォルダ機能			
	5.3	配置設計			
	5.4	階層設計		5.4.1	部署フォルダ
				5.4.2	ワーキングフォルダ
				5.4.3	システムユースフォルダ
				5.4.4	ログフォルダ
				5.4.5	システムバックアップフォルダ
	5.5	クォータ設計			
	5.6	ABE設計			
	5.7	DFS設計		5.7.1	部署フォルダ
				5.7.2	ワーキングフォルダ
	5.8	ACL設計	5.8.1	部署フォルダ	
			5.8.2	ワーキングフォルダ	
			5.8.3	システムユースフォルダ	
			5.8.4	ログフォルダ	
			5.8.5	システムバックアップフォルダ	
	5.9	フォルダ接続設計			
6ファンリティ設計	6.1	データセンター情報		6.1.1	データセンター一覧
				6.1.2	設置環境
				6.1.3	設置スペース
	6.2	ラック情報	6.2.1	ラック仕様	
			6.2.2	ラック構成	
	6.3	ケーブル情報	6.3.1	ケーブル仕様	
			6.3.2	ケーブル配色ルール	
	6.4	ラベル・タグ情報	6.4.1	ラベル・タグ仕様	
			6.4.2	ラベル・タグの貼付・取付位置	
	6.5	作業の留意点	6.5.1	ラッキングの留意点	
			6.5.2	配線の留意点	6.5.2.1 LANケーブル
					6.5.2.2 電源ケーブル
7バックアップ及びリストア設計	7.1	基本方針			
	7.2	データバックアップ及びリストア		7.2.1	データバックアップ
				7.2.1.1	通常運用
				7.2.1.2	DR運用
				7.2.2	データリストア
				7.2.2.1	通常運用
				7.2.2.2	DR運用
				7.2.3	システムバックアップ
				7.2.4	システムリストア
8ログ管理設計	8.1	基本方針			
	8.2	管理対象ログ			
	8.3	ログの収集設計		8.3.1	通常運用
				8.3.2	DR運用
				8.3.2.1	江東DC被災
				8.3.2.2	仙台DC被災
				8.3.2.3	札幌DC被災
	8.4	統合ログ管理システム連携対象ログ			
9データ管理設計	9.1	概要			
	9.2	管理対象		9.2.1	収集情報
				9.2.2	レポート
	9.3	管理方式	9.3.1	情報収集	
			9.3.2	レポート出力	
			9.3.3	レポートのバックアップ	
			9.3.4	収集情報の保管・破棄	
			9.3.5	レポートの保管・破棄	
10監視設計	10.1	監視概要			
	10.2	死活監視		10.2.1	監視方式
				10.2.2	監視対象
				10.2.3	監視項目／監視間隔／閾値
	10.3	性能監視	10.3.1	監視方式	
			10.3.2	監視対象	
			10.3.3	監視項目／監視間隔／閾値	
	10.4	SNMPトラップ監視	10.4.1	監視方式	
			10.4.2	監視対象	
			10.4.3	監視項目／監視間隔／閾値	
	10.5	ログ管理	10.5.1	監視方式	
			10.5.2	監視対象	
			10.5.3	監視項目／監視間隔／閾値	
	10.6	サービス監視	10.6.1	監視方式	
			10.6.2	監視対象	
			10.6.3	監視項目／監視間隔／閾値	
	10.7	プロセス監視	10.7.1	監視方式	
			10.7.2	監視対象	
			10.7.3	監視項目／監視間隔／閾値	
	10.8	アラート通知			
	10.9	ダッシュボード			
11セキュリティ設計	11.1	マルウェア対策		11.1.1	概要
				11.1.2	マルウェア対策の対象
				11.1.3	
				11.1.4	ウイルススキャン方式
				11.1.5	ポリシー
				11.1.6	
				11.1.7	
				11.1.8	マルウェア検知時の処理内容
	11.2	アクセス制御設計	11.2.1	概要	
			11.2.2	フォルダのアクセス制御	11.2.2.1 アクセス経路
					11.2.2.2 アクセス制御方式
			11.2.3	機器のアクセス制御	11.2.3.1 アクセス経路
					11.2.3.2 アクセス制御方式
			11.2.4	ネットワークのアクセス制御	11.2.4.1 アクセス経路
					11.2.4.2 アクセス制御方式
	11.3	暗号化	11.3.1	概要	
			11.3.2	通信の暗号化	11.3.2.1 管理者認証情報暗号化
					11.3.2.2 利用者認証情報暗号化
					11.3.2.3 システムユーザ認証情報暗号化
			11.3.3	蓄積データ暗号化	11.3.3.1 管理者認証情報暗号化
					11.3.3.2 利用者認証情報暗号化
					11.3.3.3 システムユーザ認証情報暗号化
	11.4	セキュリティパッチ／ファームウェア適用	11.4.1	概要	
			11.4.2	適用対象	11.4.2.1 機器
					11.4.2.2 OS
					11.4.2.3 ソフトウェア
			11.4.3	適用方式	11.4.3.1 検証環境による事前確認後に適用
					11.4.3.2 保守業者からの開示情報のみで適用

				11.4.3.3	保守業者が保守作業時に適用
				11.4.3.4	WSUSとの連携
	11.5	不正監視	11.5.1	概要	
			11.5.2	監視対象	
			11.5.3	監視項目／監視間隔／閾値	
			11.5.4	アラート通知	
			11.5.5	ログ検索	
	11.6	監査	11.6.1	概要	
			11.6.2	監査対象／監査ログ／監査レポート	
			11.6.3	監査ログの収集	
			11.6.4	監査ログの検索	
			11.6.5	監査レポートの出力	
			11.6.6	監査ポリシー	
12	アカウント設計	12.1	基本方針		
		12.2	ファイルサーバ		
		12.3	仮想基盤サーバ		
		12.4	Windows OS		
		12.5	L2スイッチ		
		12.6	ALog		
		12.7	Resource Athlete		
		12.8	ENS/ENSSP		
13	災害対策設計	13.1	基本方針		
		13.2	災害対策業務継続方式	13.2.1	江東DCが被災した場合
				13.2.2	仙台DCが被災した場合
				13.2.3	札幌DCが被災した場合
14	ネットワーク設計	14.1	ネットワーク構成図	14.1.1	物理ネットワーク構成図
				14.1.2	論理ネットワーク構成図
		14.2	ネットワーク機器		
		14.3	拠点間ネットワーク設計	14.3.1	帯域設計
				14.3.1.1	サービス用LAN
				14.3.1.2	レプリケーション用WAN
				14.3.1.3	待機系稼働時のWAN回線
		14.4	拠点内ネットワーク設計	14.4.1	ネットワークセグメント設計
				14.4.2	ルーティング設計
				14.4.2.1	デフォルトゲートウェイ
				14.4.2.2	スタティックルート
			14.4.3	VLAN設計	
			14.4.4	IPアドレス設計	
			14.4.5	ホスト名	
		14.5	機器接続設計	14.5.1	L2スイッチ-L3スイッチ
				14.5.2	L2スイッチ-L2スイッチ
				14.5.3	L2スイッチ-ファイルサーバ
				14.5.4	L2スイッチ-仮想基盤サーバ
				14.5.5	仮想基盤サーバ-仮想サーバ
				14.5.6	L2スイッチ-Zabbixプロキシサーバ
		14.6	L2スイッチ	14.6.1	ポートの割当て
				14.6.2	VALN
				14.6.3	共通設定
				14.6.4	ポート設計
				14.6.5	可用性
				14.6.6	拠点ごとのL2スイッチ詳細
15	ファイルサーバ設計	15.1	ファイルサーバ構成概要		
		15.2	ファイルサーバ一覧		
		15.3	ファイルサーバ構成	15.3.1	ファイルサーバ仕様
				15.3.2	ファイルサーバ論理構成
				15.3.2.1	物理ディスク、及びRAIDグループ
				15.3.2.2	ストレージプール
				15.3.2.3	論理ボリューム
				15.3.2.4	共有
				15.3.2.5	仮想ストレージ/サーバ機能
		15.4	コントローラ構成	15.4.1	物理構成
				15.4.2	論理構成
		15.5	ディスク容量設計	15.5.1	必要容量
				15.5.1.1	稼働系における必要なディスク容量の考え方
				15.5.1.2	待機系兼BKにおける必要なディスク容量の考え方
				15.5.1.3	検証機における必要なディスク容量の考え方
				15.5.1.4	ディスク搭載容量
			15.5.2	物理レイアウト設計	
		15.6	RAID設計	15.6.1	稼働系
				15.6.1.1	階層型ストレージ構成の場合
				15.6.1.2	オールフラッシュ型ストレージ構成の場合
			15.6.2	待機系兼BK	15.6.2.1 階層型ストレージ構成の場合
				15.6.2.2	オールフラッシュ型ストレージ構成の場合
			15.6.3	検証機	15.6.3.1 階層型ストレージ構成の場合
				15.6.3.2	オールフラッシュ型ストレージ構成の場合
			15.6.4	ホットスベア	15.6.4.1 階層型ストレージ構成の場合
		15.7	ストレージプール設計	15.7.1	ストレージプールの命名規則
				15.7.2	稼働系
				15.7.3	待機系兼BK
				15.7.4	検証機
		15.8	論理ボリューム設計	15.8.1	ボリューム命名規則
				15.8.2	ボリューム命名規則構成
				15.8.2.1	論理ボリュームの作成単位
				15.8.2.2	ボリュームプロビジョニング方式設計
				15.8.2.3	論理ボリュームの容量設計
				15.8.2.4	ツリー
				15.8.2.5	CIFS共有
			15.8.3	稼働系	
			15.8.4	待機系兼BK	
			15.8.5	検証機	
		15.9	複製設計	15.9.1	複製機能
				15.9.2	複製
				15.9.3	逆複製
		15.10	クォータ管理	15.10.1	クォータ管理機能
				15.10.1.1	クォータ管理設計
				15.10.1.2	クォータ設定値超過時の設計
				15.10.1.3	切り替え運用時、及び切り戻し時の考慮事項
		15.11	可用性設計	15.11.1	ファイルサーバ
				15.11.1.1	災害時
				15.11.1.2	障害／メンテナンス時
			15.11.2	コントローラ	
			15.11.3	ネットワーク	
			15.11.4	ディスク	15.11.4.1 階層型ストレージ構成の場合
					15.11.4.2 オールフラッシュ型ストレージ構成の場合
			15.11.5	電源	
		15.12	キャパシティ管理設計	15.12.1	ストレージプールの拡張／縮小
				15.12.2	論理ボリュームの拡張／縮小
		15.13	セキュリティ設計	15.13.1	ランサムウェア対策設計
				15.13.2	ウィルススキャン設計
16	管理サーバ設計	16.1	概要		
		16.2	仮想基盤サーバ設計	16.2.1	ハードウェア及びリソース
				16.2.2	OS
				16.2.3	ハイパーバイザ
				16.2.4	ソフトウェア
				16.2.5	スクリプト
		16.3	仮想サーバ設計	16.3.1	リソース
				16.3.2	ウィルススキャンサーバ
				16.3.2.1	OS
				16.3.2.2	ソフトウェア
				16.3.2.3	スクリプト
			16.3.3	ログ管理サーバ	16.3.3.1 OS
				16.3.3.2	ソフトウェア
				16.3.3.3	スクリプト
			16.3.4	データ管理サーバ	16.3.4.1 OS
				16.3.4.2	ソフトウェア
				16.3.4.3	スクリプト
			16.3.5	可用性設計	
			16.3.6	サーバー一覧	
			16.3.7	リソース一覧	
17	システム連携設計	17.1	連携システム一覧		
		17.1	統合監視システム		
		17.1	統合ログ管理システム		
		17.1	特権ID管理システム連携設計		
		17.1	IT資産管理システム		
		17.1	ウィルス対策システム		
		17.1	ADサーバ		

		17.1	NTPサーバ				
		17.1	Windows更新管理システム				
		17.1	リモートアクセスシステム:VDI				
		17.1	リモートアクセスシステム:モバイル				
		17.1	申請管理用DB				
		17.1	IDMシステム				
		17.1	CAサーバ				
基本設計書別紙							
1:ファイルサーバ別利用部署一覧							
2:ラック構成図							
3:論理ネットワーク図							
4:物理ネットワーク構成図							
5:ディスク構成							
6:ボリューム及び共有フォルダー一覧							
7:セキュリティグループ一覧							
8:バックアップ及び方法一覧							
9:監視対象及び方法一覧							
10:ログ一覧							
11:レポート一覧							
12:部署フォルダ作成・セキュリティグループの割当・アクセス権の不要ルール							

<留意事項>  
■本書は目次構成案であり一部変更になる可能性があります。

別紙3 貸与資料目次構成案

●運用計画書目次構成案

本紙			
章	節		項
1 はじめに	1.1	目的	
	1.2	準拠する社内規定	
	1.3	用語集	
	1.4	対象読者	
	1.5	本書の対象システム	
	1.6	関連図書	
2 運用設計の前提	2.1	運用設計の範囲	
	2.2	運用環境	
	2.3	運用業務・運用管理	
	2.4	運用提供時間	
3 運用体制	3.1	リース期間	
	3.2	運用範囲	
	3.3	運用体制	
4 運用業務	4.1	点検	4.1.1 始業点検
			4.1.2 定期点検
	4.2	システムの停止及び起動	4.2.1 システム停止
			4.2.2 システム起動
	4.3	システム監視	4.3.1 死活監視
			4.3.2 性能監視
			4.3.3 SNMPトラップ監視
			4.3.4 ログ監視
			4.3.5 サービス監視
			4.3.6 プロセス監視
	4.4	ファイルサーバ管理運用	4.4.1 容量管理
			4.4.2 フォルダ管理
			4.4.3 ユーザデータ操作
			4.4.4 クォータ管理
			4.4.5 モバイルアクセス管理
			4.4.6 組織改編管理
	4.5	ログ管理運用	4.5.1 管理対象ログ
			4.5.2 ログ収集の流れ
			4.5.3 監査レポート出力
			4.5.4 アクセス履歴調査
			4.5.5 部署フォルダの監査追加設定
			4.6.1 データ収集と保管
	4.6	データ管理運用	4.6.2 レポート
			4.7.1 バックアップとリストア運用
	4.8	セキュリティ運用	4.8.1 マルウェア対策
			4.8.2 バッチ／ファーム適用
			4.8.3 パスワード管理
			4.8.4 証明書管理
			4.8.5 監査
			4.9.1 計画メンテナンスによる切替え
	4.9	計画メンテナンス時運用	4.9.2 利用者への通知
			4.10.1 復旧目標
			4.10.2 障害切り分け
			4.10.3 障害の報告
			4.10.4 保守業者への対応依頼
			4.10.5 システムリストア
	4.10	障害時運用	4.10.6 障害による切替え
			4.10.7 利用者への通知
			4.10.8 障害復旧時の切戻し
			4.10.9 障害管理
			4.11.1 復旧目標
			4.11.2 通常時の運用
	4.11	災害時運用	4.11.3 札幌DCが被災した場合の運用
			4.11.4 仙台DCが被災した場合の運用
			4.11.5 江東DCが被災した場合の運用
			4.11.6 災害復旧時の運用
			4.12.1 外部委託作業
			4.12.2 月次報告書作成
5 運用管理	5.1	インシデント管理	
	5.2	問題管理	
	5.3	構成管理	
	5.4	変更管理	
	5.5	リリース管理	
	5.6	サービスレベル管理	
	5.7	キャパシティ管理	
	5.8	可用性管理	
	5.9	サービス継続性管理	
6 運用ツール	6.1	運用ツールの一覧	
	6.2	運用ツール処理設計	
	6.3	運用ツール改修	
7 運用手順書			
別紙			
1 運用業務項目一覧			
2 運用スケジュール一覧			
3 拠点別、停止時の影響一覧			
4 個別機器別、停止時の影響一覧			
5 システムバックアップフォルダ出力先一覧			

<留意事項>

■本書は目次構成案であり一部変更になる可能性があります。

別紙3 貸与資料目次構成案

●移行計画書目次構成案

本紙					
章	節	項			
1 はじめに	1.1 本書の目的				
	1.2 用語の定義				
	1.3 本書の対象読者				
	1.4 本件業務の背景				
	1.5 関連図書				
2 前提条件	2.1 データ移行対象				
	2.2 移行先機器				
	2.3 移行方法				
	2.4 移行期間				
	2.5 留意事項				
3 移行方式案検討	3.1 データ移行／システム切替方式検討	3.1.1	データ移行手段		
		3.1.2	データ移行／システム切替時のウィルススキャン		
		3.1.3	データ移行／システム切替時の監視		
		3.1.4	連携システム切替方式		
		3.1.5	連携システム切替検証項目		
		3.1.6	並行稼働期間中のフォルダ変更方式		
		3.1.7	並行稼働期間中のレプリケーション方式		
	3.2 伝送効率調査と移行用回線帯域	3.2.1	伝送効率調査における前提条件		
		3.2.2	伝送効率調査		
		3.2.3	必要帯域		
	3.3 グループ会社NAS移行				
	4 移行フェーズ	4.1 データ移行／システム切替タスク			
		4.2 各フェーズの期間			
		4.3 各フェーズの移行範囲			
	5 移行タスク	5.1 データ移行／システム切替準備	5.1.1	DC／回線／機器／ツールの準備	
5.1.2			現行FS設定		
5.1.3			次期FS設定		
5.1.4			連携システム設定		
5.2 データ移行／システム切替前作業		5.2.1	データ整合性		
		5.2.2	業務停止の範囲／タイミング		
		5.2.3	関係者への周知方法		
		5.3 データ移行作業	5.3.1	初期データ移行	
5.3.2			差分データ移行		
5.3.3			初期レプリケーション		
5.3.4			差分レプリケーション		
5.4 システム切替リハーサル		5.3.5	データ移行開始基準		
		5.3.6	データ移行完了基準		
		5.4.1	切替リハーサル		
		5.4.2	切戻リハーサル		
5.5 システム切替					
		5.6 システム切替判定	5.6.1	判定確認項目	
			5.6.2	動作確認基準	
		5.7 システム切替後作業			
			5.8 テスト方式検討		
				5.9 データ移行、及びシステム切替体制の検討	5.9.1
			5.9.2		体制
6 コンティンジェンシープラン		6.1 データ移行時における問題発生時の対応方針			
		6.2 システム切替時における問題発生時の対応方針			
別紙					
1 システム移行に関するマスタースケジュール(案)					

<留意事項>

■本書は目次構成案であり一部変更になる可能性があります。